

職員の健康状態・介助の現状を知り 新たなスライディングシートの導入

～心地よい介護と腰痛予防・改善を目指して～



介護老人保健施設 あけぼの苑
柴本 利朗



はじめに

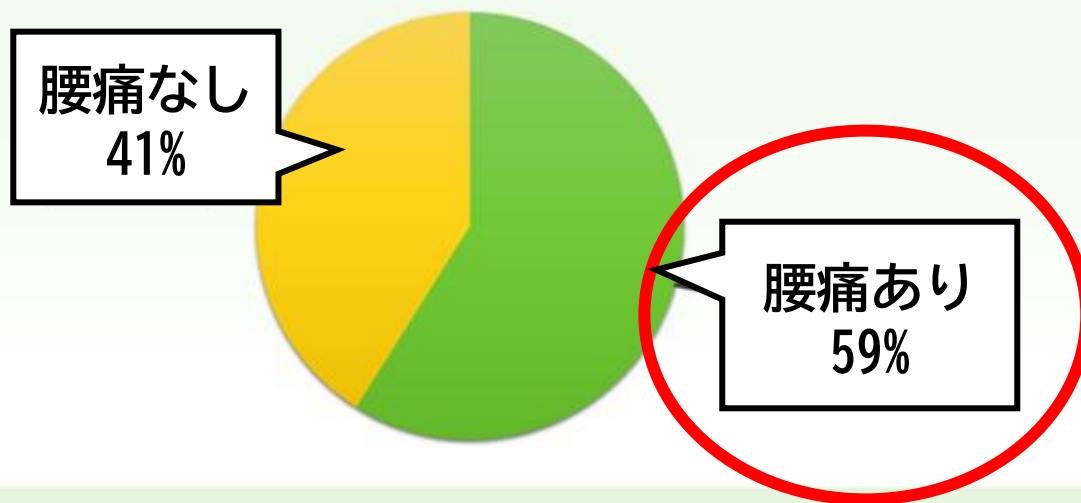


- 当苑では以前よりノーリフティングケアを推奨・実施している。
- 新たな機器の導入等を日々提案・検討しているが、まずは現状活用できる福祉用具や安易に導入が可能な福祉用具等を活用した安心・安全で身体的な負担のない介助を行える事が職員の健康状態を維持改善させ、ご利用者様にとっても心地の良い介護につながるのではないかと考える。
- アンケート調査の結果、腰痛を感じる作業においてベッド上での介助の割合が多かった。
- 改善策として新たに『スピラドゥ』というスライディングシートを購入し、使用開始。2カ月後に使用状況のアンケート調査を実施。その結果と今後の課題・展望についてまとめたので報告する。

腰痛発生状況と福祉用具の活用状況 についてのアンケート調査結果



腰痛がある方・ない方の割合

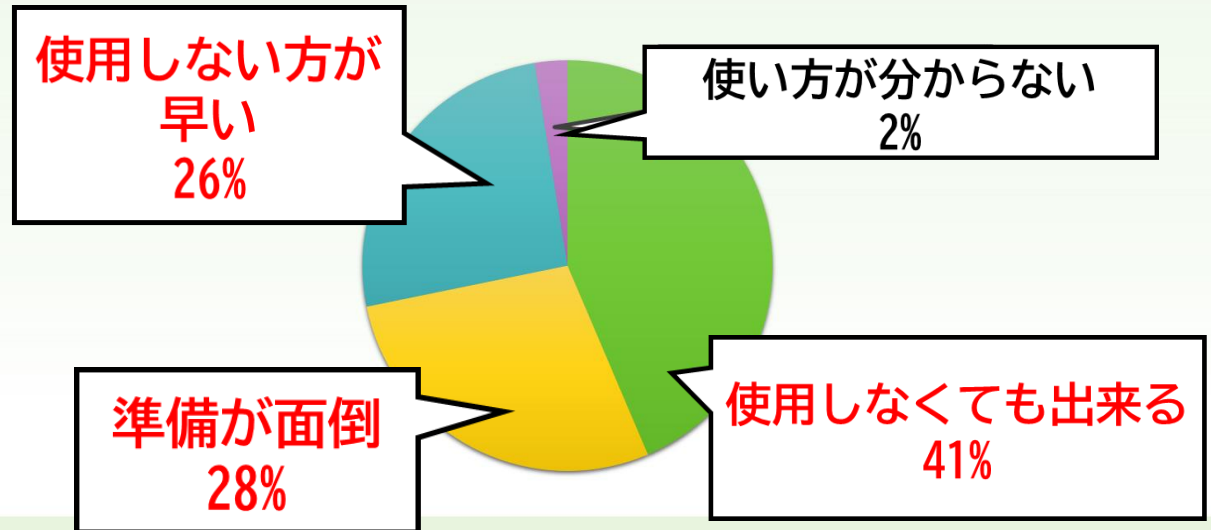


- 作業の割合で移乗や立ち上がり介助に次いでベッド上での介助(オムツ交換や清拭、ベッド上の移動も含めた姿勢変換等)が多い。しかし、福祉用具(スライディングシート)の活用状況を確認すると半数は活用していない。

介助場面における福祉用具の活用状況



福祉用具を使用しない理由



改善に向けた具体的な取り組み



- ノーリフティングケアについての勉強会を実施。医療介護現場における労災の発生状況やノーリフティングケアの概念・目的等の基本的な内容についての勉強会を実施し、意識の共有化を図る。
- スライディングシート『スピラドゥ』の購入。1m×1mに切り分け2枚一組にして各部署に配布。
- 使用方法等の伝達指導について各部署(通所・入所・リハビリ)で数回に分けて実施。その後の使用状況等についてのアンケートを2ヶ月後に実施。



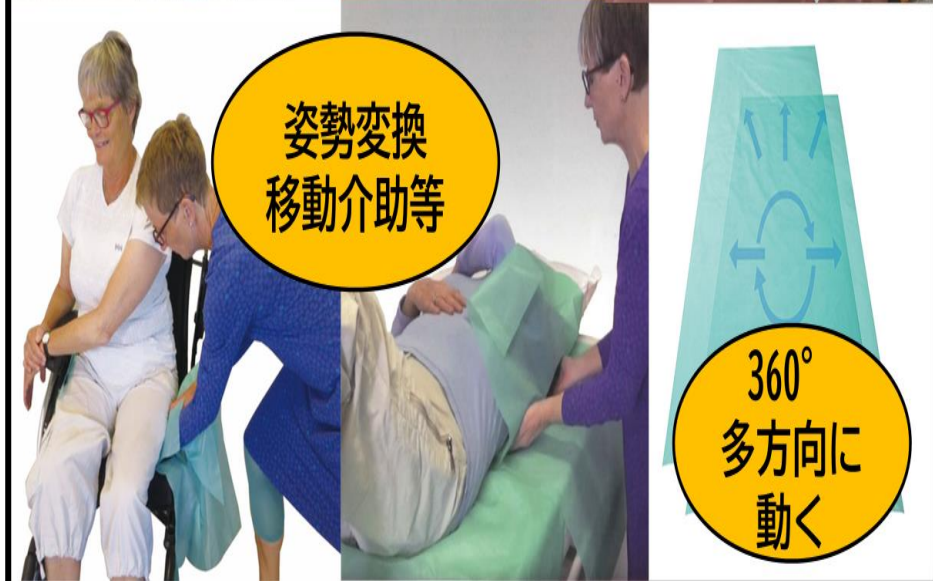


スピラドゥの紹介

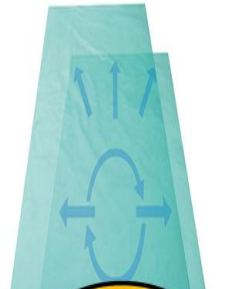


リハビリ

更衣介助
補助具



姿勢変換
移動介助等



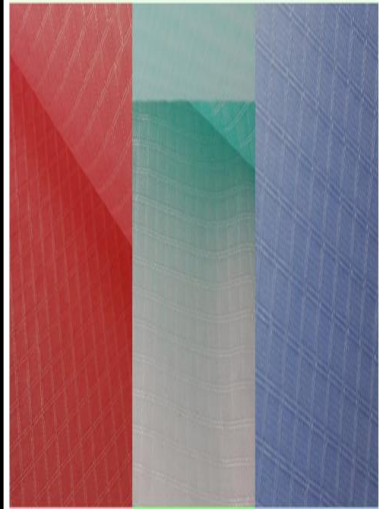
360°
多方向に
動く

種類は3種類あり、
用途や体格等を考慮して
選択できる

カットされた状態での販売
だけでなくロールでの販売
もしている為、好きなサイズ
でのカットも可能。

柔らかく
しなやか

硬くて
もつとも
よくずべる



ピンク グリーン ブルー



スピラドゥの利点



- 寝返りが出来なくても敷くことが出来る
- 滑りが良く、軽い力で介助できる
- 2枚重ねる又は1枚を折り畳んで使用する為、360°多方向に動く
- 車椅子やベッド上のみでなく、更衣やリハビリにも使用できる等多様性に長ける
- ロール販売もあり、使いやすいサイズにカットして使用できる
- 洗濯や次亜塩素酸での消毒も可能
- 介護保険サービスでもレンタル可能



勉強会の様子

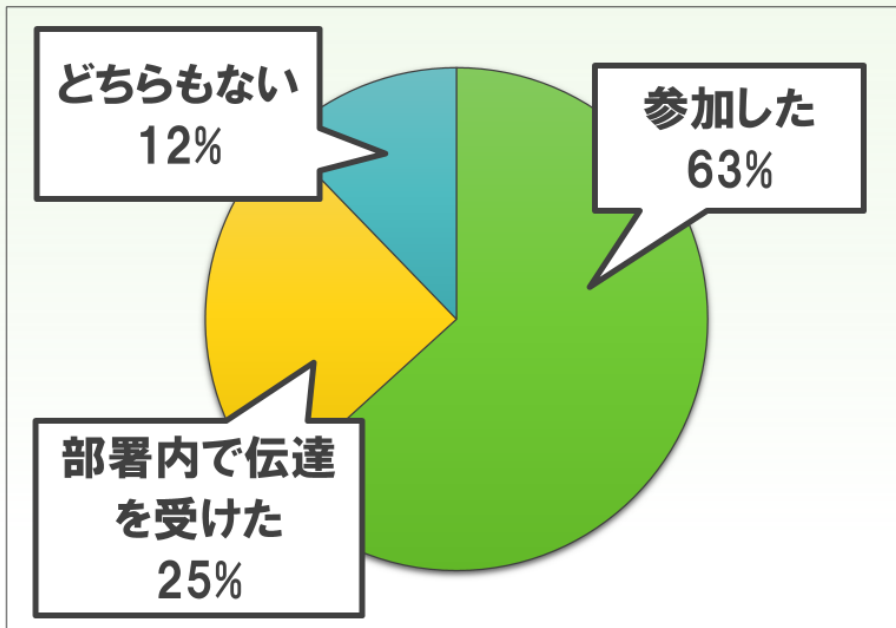


2ヶ月後のアンケート調査結果①

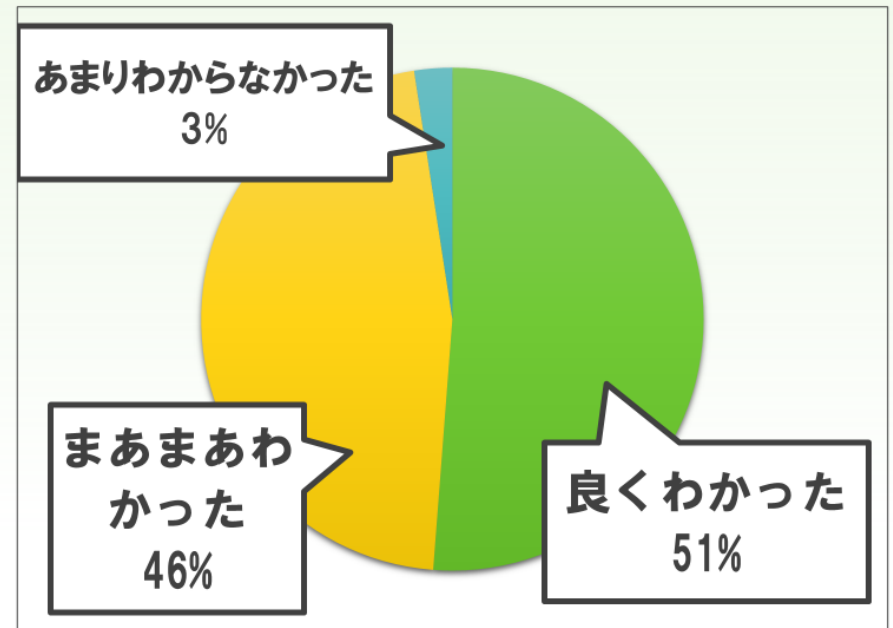


勉強会の参加率と理解度

勉強会参加状況



勉強会の理解度

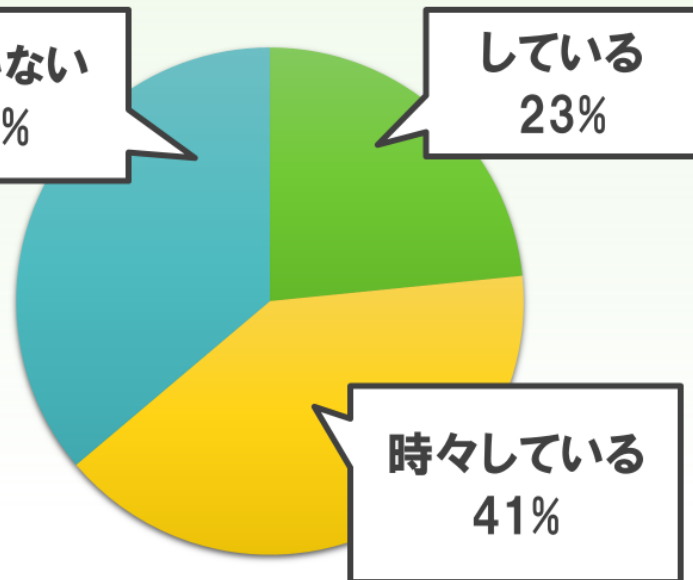


2ヶ月後のアンケート調査結果②

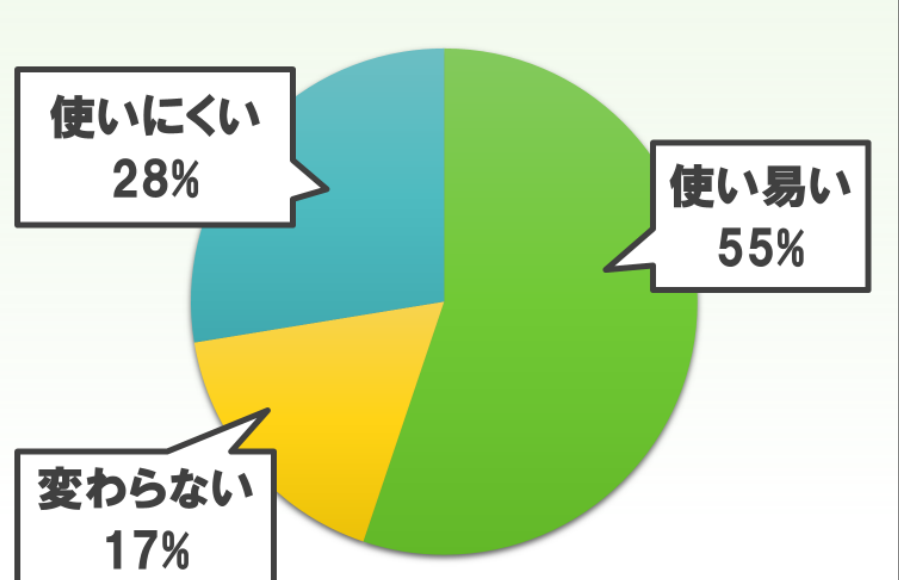


活用状況と使い易さ

活用状況



使い易さ (既存の物との比較)



2ヶ月後のアンケート調査結果③



福祉用具を使用しない理由



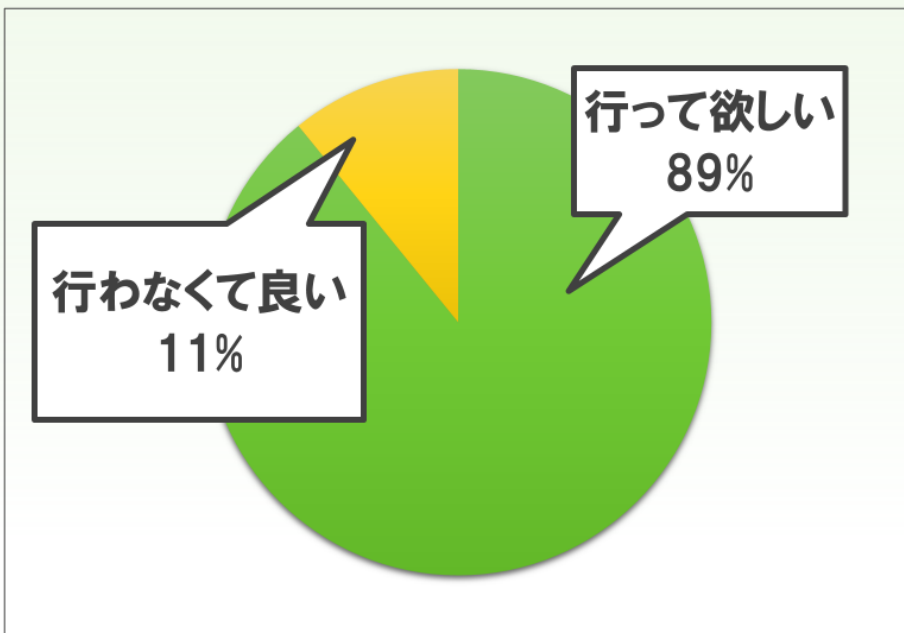
ポケットサイズ
で携帯化希望
80%

2ヶ月後のアンケート調査結果④

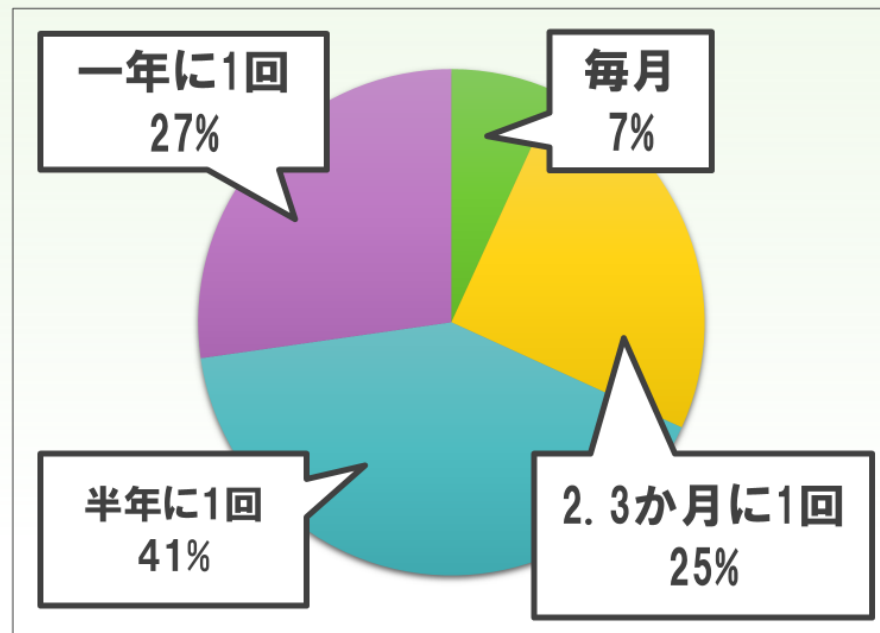


勉強会の定期開催と頻度の希望

定期開催の希望



開催頻度の希望



アンケートの結果から読み取れる 課題と対策①



①使用方法の知識・技術不足

▶半年に1回、定期の勉強会開催。



スキルアップ・使用の円滑化。

※但し、既存のスライディングシートも含めて

使い易い物を選択して使用できる事が大切。

②存在/保管場所の伝達・周知が不十分

▶存在や設置場所のアナウンスを行う。

③準備の手間

▶利用者様のベッドや浴室、ストレッチャー等に常設。

ポケットサイズの物を用意し、常備携帯化を図る。

アンケートの結果から読み取れる 課題と対策②

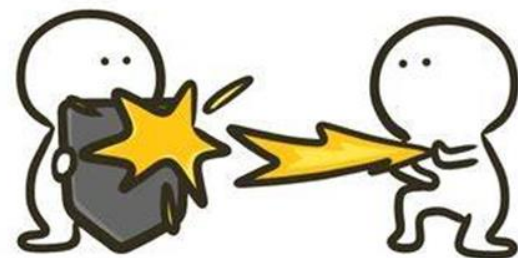


④使用対象の条件の理解や状態の把握、スタッフ間
の連携が不十分

▶委員会や部署内の会議等を通し、対象利用者様を
把握する等、他職種での情報共有化を強化

⑤利用者様の立場を欠いた自分主体の介助・考え
や労災リスクへの意識の低さ

▶ケア・介助方法の統一化。自分主体の介助を減らす。





今後の展望



- ①介助場面等における腰痛の軽減・予防を図る。
- ②使用したい時・使用したい場所ですぐに使用出来る環境を整える為、物品数増加や常備携帯化を図る。
- ③ご利用者様ごとに適切な福祉用具の選定や提案、使用を行う事が出来、統一したケアを行う事が出来る。
- ④転倒・転落や受傷、褥瘡等の2次障害やトラブルの発生を防止が出来る。
- ⑤福祉用具を活用する事で、ご利用者様自身動く事が楽になる・介助の際の不快感をなくすことで、離床や活動に際し意欲向上等、自立支援に繋げる。



ご清聴
ありがとうございました

